

# DAY 2

Hosted by  
CISMOR and School of Theology, Doshisha University

## Conference on Jewish Studies

Jews and Christians, Jews and Muslims:

The interactions of these religions in historical and cultural perspective  
ユダヤ教徒、キリスト教徒、ムスリムの相互作用 — 歴史的、文化的見地から

9:00-12:00, 23 January, 2011  
Kouen-kan Conference Room, Doshisha University

### 【発表】

## 現代ユダヤ倫理学をめぐる ひとつの系譜学的対位法

合田 正人  
明治大学文学部 教授

## 国制としてのユダヤ教とイスラーム： ギリシア的ポリテイア概念からのアプローチ

市川 裕  
東京大学文学部・大学院人文社会系研究科 教授

### 【コメンテーター】

杉村 靖彦 京都大学大学院文学研究科 准教授

竹内 裕 熊本大学文学部 准教授

### 【司会】

四戸 潤弥  
同志社大学神学部・神学研究科 教授

## 【スケジュール】

	開会ご挨拶	四戸 潤弥
9:00－10:00	発表	合田 正人
10:00－10:10	コメント	杉村 靖彦
	< Break >	
10:20－11:20	発表	市川 裕
11:20－11:30	コメント	竹内 裕
11:30－12:00	ディスカッション	

## 【発表者紹介】

### ■ 合田 正人 ごうだまさと 明治大学文学部 教授

1957年香川県生まれ。一橋大学社会学部卒業。東京都立大学大学院、パリ第八大学大学院博士課程中退。  
琉球大学、東京都立大学教官を経て、現在、明治大学文学部教授。専攻は西洋思想史。

主な著書として、『レヴィナス』(ちくま学芸文庫)、『ジャンケレヴィッチ——教会のラプソディー』(みすず書房)、『世紀を超える実存の思想』(明治大学)、他。訳書:レヴィナス『存在の彼方へ』(講談社学術文庫)、グットマン『ユダヤ思想』(みすず書房)、ポリアコフ『反ユダヤ主義の歴史』(共訳、筑摩書房)、ブーバー『ひとつの土地にふたつの民』(みすず書房)、他。

### ■ 市川 裕 いちかわひろし 東京大学大学院人文社会系研究科 教授

1953年生まれ。専攻は宗教史学、聖書、ユダヤ教。

1976年、東京大学法学部を卒業後、宗教学の大学院で旧約聖書を学ぶが、イエス時代のユダヤ教に強く惹かれたため、1982年にエルサレムのヘブライ大学に留学し、いわゆる律法研究に取り組む。

大学では学べない生きた宗教の現場を経験するため、現地のシナゴーク(ユダヤ教会堂)で、1年間、毎朝の礼拝に出席し、一般庶民の生活の中に深く根ざした宗教の営みに感銘を受けた。また、現地で日本の宗教伝統について多く質問を受け、自分がいかに日本の宗教伝統に無知であるかを思い知らされた。そうした体験と、1985年の帰国後に日本の宗教を学び直す中で、思索を深めた結果を、『ユダヤ教の精神構造』にまとめた。その後、タルムードの読解など、古代のラビ・ユダヤ教を専門とするが、ユダヤ教の通史的理解を常に意識して研究を進めている。

主な著書として『ユダヤ教の歴史 宗教の世界史7』(山川出版社)、『ユダヤ人と国民国家』(共編)[岩波書店(分担「第一章 宗教学からみた近代ユダヤ人のアイデンティティ」)], 『宗教史とは何か 上巻』(共編)、[リトン(分担「ギリシアとの相克としてのユダヤ教史」)], 「一神教と<戒>—ユダヤ教的特徴」『思想の身体 戒の巻』(松尾剛次編、春秋社)、 「レヴィナスにおけるタルムード研究の意義」『レヴィナス—ヘブライズムとヘレニズム—』(哲学会編、哲学雑誌第121 巻793 号、有斐閣)、 『バビロニアタルムード・マッコート篇』(翻訳監修)(三貴)、 『東洋思想 ユダヤ思想 1』(共著)(岩波書店)他。